

北葛地域政策研究会ニュース

第13回会合を開催しました

令和3年12月19日(日)、北葛地域政策研究会の第13回会合を上牧町ペガサスホール小ホールで開催いたしました。24名が出席し、「公共施設のマネジメント」について前橋工科大学工学部の堤洋樹准教授にお話しを伺いました。

来賓として、佐藤啓参議院議員、今中富夫上牧町長、山村吉由広陵町長、清原和人河合町長がご臨席くださいました。



佐藤参議院議員



今中町長



山村町長



清原町長



乾浩之会長

乾会長の開会挨拶要旨

公務ご多用の中、ご出席くださった講師、来賓並びに会員の皆様、ありがとうございます。新型コロナウイルスによる感染症は、新しい変異株による感染拡大も心配されており、まだまだ油断ができないところです。

4町の町長さんが日頃から連携を密にされ、公共施設の共通利用についても合同の勉強会をされていますので、我々も勉強しようということで、今回は公共施設のマネジメントについて堤先生にご講演をお願いしたところです。

今日は感染予防に努めながらの会合ですが、直接話ができる貴重な機会です。私もこの研究会から出てきたアイデアや課題を県議会で取り上げていますので、いろいろな意見を出していただければと思います。

公共施設のマネジメントを考える

はじめに 計画から実践へ

お荷物で使い捨ての「老いる公共施設」

- 人口減少・財政悪化の地方自治体が取れる対策は大きく2つ
- ×公共施設の整備を続けるために長寿命化し維持管理費を削減
- 不要な公共施設の総量や運営費を改善し財政負担を削減



従来の「公共施設」の概念では対応できない

- ・使い方自体を変える必要あり(必要に応じて法制度の整備)
- ・行政が変わるとともに、住民への働きかけが不可欠



公共施設(ハコモノ)の整備だけにとらわれない 「しまいかた」を実践していく必要がある

施設マネジメントの前提

(公共)施設 = (公共)サービス拠点

公共施設は公共サービスを提供する拠点であり
単に施設を提供することが目的ではない

※関係者だけでなく利用者 = 地域全体での協働作業が不可欠

◎公共FMのポイント

公共サービスから公共施設を考える

→求められているのは「施設」ではなく「サービス」の改善

公共施設のマネジメントとして人口減少に直面する自治体を取るべき対策は現存建物の長寿命化ではなく公共施設の総量見直しと運営費の改善による財政負担の軽減です。

そのためには、従来の公共施設の考え方から脱却し、公共施設の「しまいかた」を実践していく必要があります。

公共施設マネジメントの前提として、まず施設ありきではなく、公共サービスから公共施設を考えることがポイントです。

求められているのは「施設」ではなく「サービスの改善」なのです。



前橋工科大学工学部建築学科
堤洋樹准教授のプロフィール

博士(工学)。専門は建築経済、建築生産、建築構法。

建物の長寿命化の実現に向け、ソフト・ハードの両面から研究を行う。

総務省経営・財務マネジメント強化事業・会津若松市・港区・目黒区・群馬県建設技術センターなどのアドバイザー、日本建築学会建築ストックマネジメント小委員会幹事などを兼任。

また「地域を持続可能にする公共資産経営の支援体制の構築 (RISTEX、代表)」「公共施設における協働的ダウンサイジング手法の研究開発 (科研・基盤 (C)、代表)」など公共施設管理に関する研究活動多数。

